

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第3区分
 【発行日】平成30年7月5日(2018.7.5)

【公開番号】特開2018-49606(P2018-49606A)
 【公開日】平成30年3月29日(2018.3.29)
 【年通号数】公開・登録公報2018-012
 【出願番号】特願2017-171633(P2017-171633)
 【国際特許分類】

G 0 6 F 3/0488 (2013.01)

G 0 6 F 3/0484 (2013.01)

【 F I 】

G 0 6 F 3/0488 1 3 0

G 0 6 F 3/0484 1 5 0

【手続補正書】

【提出日】平成30年5月19日(2018.5.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

表示手段に表示されたコンテンツ上の少なくとも一方を回転させる二つの指示体によるジェスチャーを、リサイズ要求と判定する判定手段を備えることを特徴とする装置。

【請求項2】

プロセッサを、

請求項1または2に記載の判定手段として機能させるための制御プログラム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

上記課題を解決するため本発明の装置は、表示手段に表示されたコンテンツ上の少なくとも一方を回転させる二つの指示体によるジェスチャーを、リサイズ要求と判定する判定手段を備えることを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

ところで、従来のリサイズ要求判定方法は、少なくとも一方を回転させる二つの指示体によるジェスチャーを利用することができないと言った問題があった。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そこで、本発明の目的は、少なくとも一方を回転させる二つの指示体によるジェスチャーを利用することができる装置および制御プログラムを提供することにある。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば、装置および制御プログラムは、少なくとも一方を回転させる二つの指示体によるジェスチャーを利用することができる。